

報告者・パネリストプロフィール

権根 勇

筑波大学名誉教授、愛知大学国際中国学研究センター・COE フェロー

東京教育大学大学院修了、理学博士。筑波大学地球科学系教授、愛知大学現代中国学部教授を経て、「21世紀COEプログラム」採択に伴い、COE フェロー。主な分野は水文学と環境問題、特に「自然と人間の関係」。主な著書に、『水文学』（大明堂、1980）、『地下水の世界』（NHK ブックス、1992）、『水と女神の風土』（古今書院、2002）。

李志東

長岡技術科学大学助教授、財団法人日本エネルギー経済研究所客員研究員

1983年、中国人民大学を卒業。90年に京都大学で経済学博士号を取得し、日本エネルギー経済研究所に入所。95年から現職。「中国の環境保護システム」（単著、東洋経済新報社、1999年）、「中国エネルギー・環境研究文集」（共著、中国環境科学出版社、2000年）、China's Sustainable Energy Strategies in The 21st Century (co-edited as the Special Issue of the International Journal of Global Energy Issues, Vol. 24, Nos. 3/4, 2005)など、中国の環境問題、エネルギー問題に関する著作、論文多数。

古市正敏

（社）海外電力調査会理事、電力国際協力センター副所長

1973年から1997年まで、通商産業省：外務省：環境庁：JICAなどで電力・エネルギー行政、環境保全、技術開発、途上国協力などを担当。1997年から現在まで、海外電力調査会において中国・韓国・アセアン諸国の電気事業者と交流・協力・調査活動を担当、METI や JICA、JBIC などの受託事業で、アジア関係国に対する電力分野の調査・協力事業を多数企画し実施。

朝倉堅五

株式会社エコ&エナジー代表取締役、朝倉技術事務所代表

1974年、東京大学大学院工学系研究科土木工学修士課程修了。博士（工学）。(株)三菱総合研究所に27年間勤務し、道路、河川・ダム、港湾、都市交通、空港など、公共インフラストラクチャアの計画と評価、さらに建設技術開発と情報システム、環境アセスメント、防災計画等に従事。一方、これらの経験を活用し、国土幹線ガスパイプライン及びアジア幹線ガスパイプラインという開発プロジェクトを総合的に推進することを目的とする、民間企業等から成る任意組織「広域天然ガスパイプライン研究会」「アジアパイプライン研究会」「北東アジアガス・パイプラインフォーラム」の創設と運営に参画し、組織運営の実務能力を磨いた。

朴鐘根

韓国ソウル国立大学工学部電気工学科教授

東京大学大学院にて電力系統工学を学び、韓国内外の電力システムを基盤としてエネルギー産業の研究に専念した。特に2000年以降の韓国電気事業体制改編、朝鮮半島南北電力連携計画では技術のみならずエネルギー経済の立場の指導者として地位を確立し、韓国政策に大きな影響を与えている。改編後の規制委員会である電気委員会では電力市場自由化、国際化の旗手として活躍。日韓共同研究（東アジアにおける電力連携及び電力ビジネスの可能性研究）の韓国側責任者。

大澤正治

愛知大学大学院経済学研究科、経済学部教授

愛知大学 COE「現代中国とアジア世界の人口生態環境問題研究会」メンバーとして中国環境問題の多様性を調査し、報告するとともに、ビデオ編集を行う。日本学術振興会日韓共同研究（東アジアにおける電力連携及び電力ビジネスの可能性研究）の日本側研究責任者。経済産業省『アジアにおける電力分野燃料調達及び企業進出を巡る動向調査委員会』委員長（1999年）。主な著書に『エネルギー社会経済論の視点』エネルギーフォーラム社（2005年）。

< 報告、問題提起順 >